

経営比較分析表（平成28年度決算）

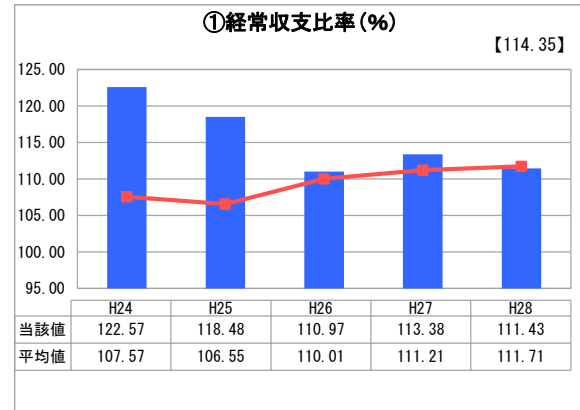
熊本県 八代生活環境事務組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	80.91	18.95	2,700	

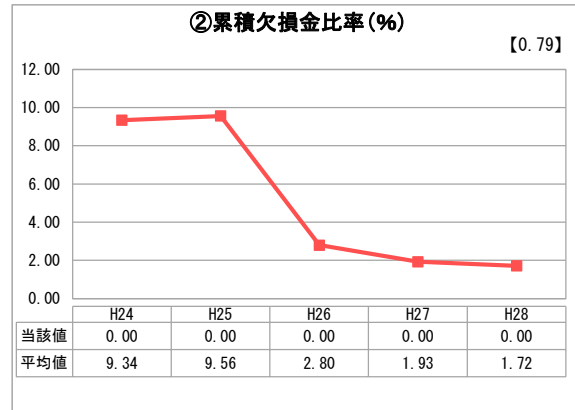
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,838	403.86	66.45

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

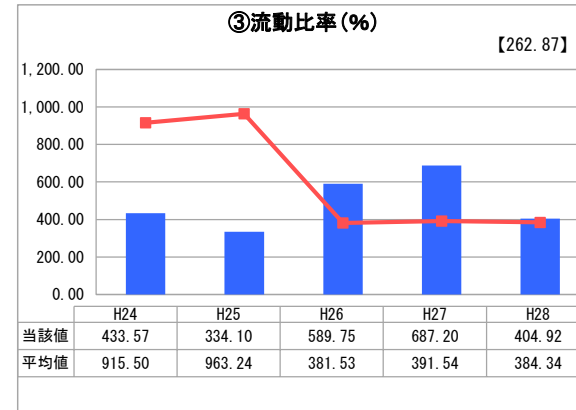
1. 経営の健全性・効率性



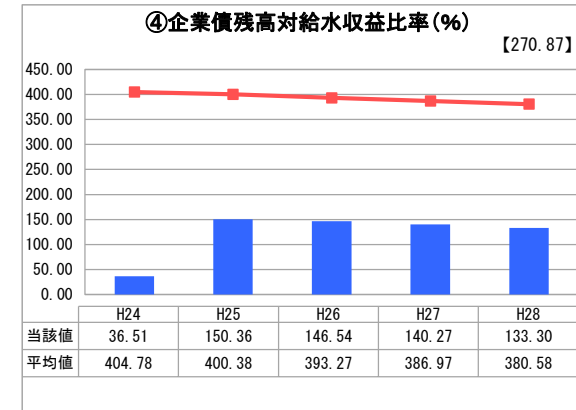
「経常損益」



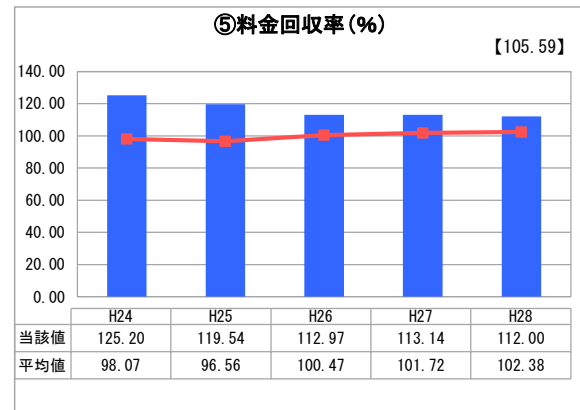
「累積欠損」



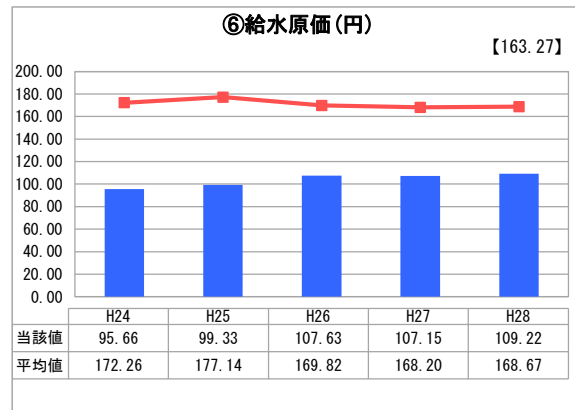
「支払能力」



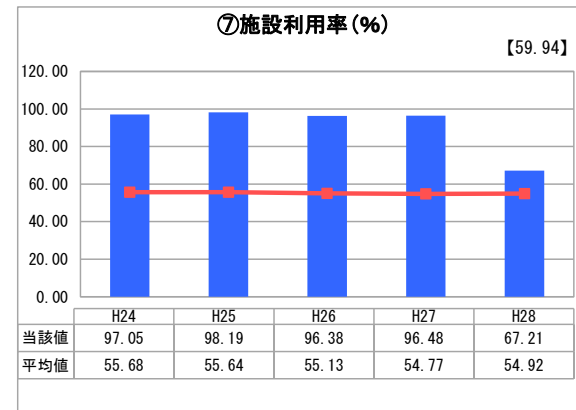
「債務残高」



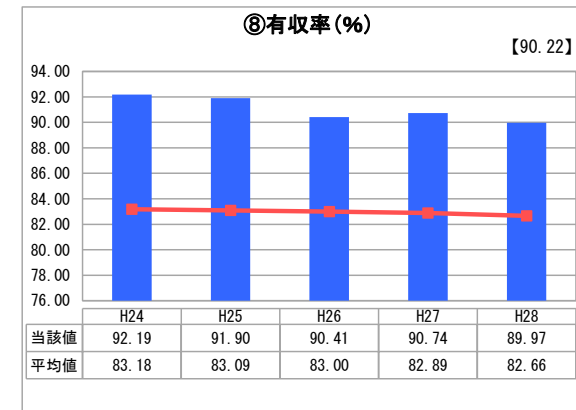
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

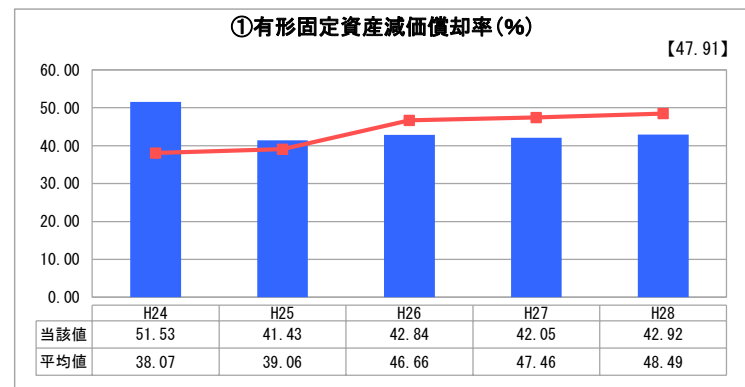
○健全性について
 経常収支比率は100%を上回る数値で推移しており、黒字経営を維持しています。また料金回収率も100%を上回っているため、給水に係る費用が料金収入によって賄えているといえます。
 流動比率が低下していますが、これは浄水場の耐震化工事による未払金が増加したためです。流動資産が流動負債を大きく上回っているため、十分な返済能力があるといえます。
 累積欠損金もなく、企業債残高の規模を表す企業債残高対給水収益比率も類似団体と比較して低い数値で推移しています。

○効率性について
 施設利用率は1日配水能力に対する1日平均配水量の割合ですが、平成27年度までは配水能力を水源である氷川ダム水利権に合わせて9,950m³/日としていましたが、平成28年度より施設そのものが持つ配水能力14,450m³/日へ修正したため、大きく数値が下がっています。今後も水利権の範囲内での運用をしていくため、同様の数値で推移していくと考えられます。
 有収率が低下傾向にあるため、今後も漏水調査等を強化し、数値を高めるよう努めていきます。

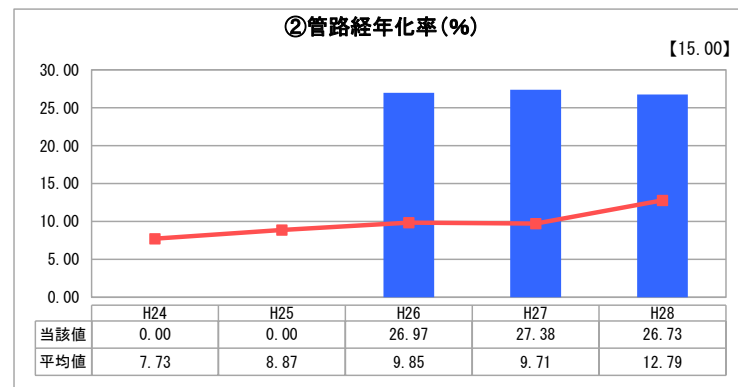
2. 老朽化の状況について

管路経年化率が全国及び類似団体平均値を大きく上回っており、管路更新率についてはわずかに上昇したものの、平均値より低い水準となっています。これは、当団体の耐震・更新事業として平成27年度に配水池の耐震化工事が終了し、平成28年度から浄水場の耐震化工事を6ヶ年かけて施工中であり、その後管路の更新事業の計画に移っていくためです。その中でも基幹管路については、順次計画的に更新を行っております。

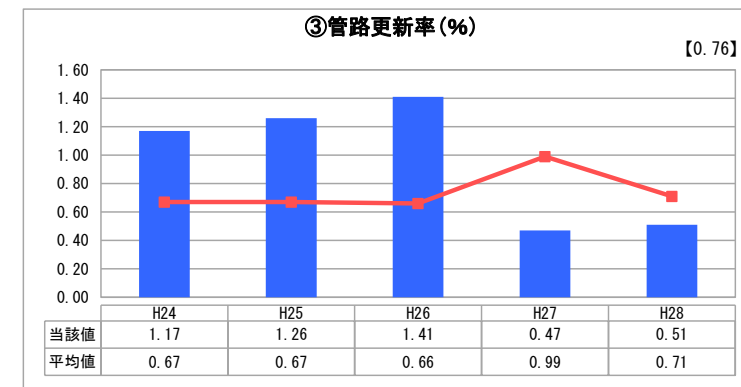
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

現時点では経営の健全性及び効率性については概ね確保されているといえますが、現在進めている浄水場耐震化工事に加え、管路の更新など、今後大規模な更新工事が次々と控えているため、更なる経費削減や財源の確保が必要となります。そのため、将来にわたって安定的な経営を続けていくための中長期的な基本計画である「経営戦略」を平成32年度中までに策定することを目標として取り組んでまいります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。